

天女のはごろも

てんによ
天女のはごろも (日本のむかし話)

むかし、ある海べに、うつくしい^{てんによ}天女がおりてきました。

天女は、はごろもを松^{まつ}の木にかけて、水あびをはじめました。

それを見つけたりようしは、あまりのうつくしさに、はごろもをもちかえろうとしました。

「それがないと、天にかえれません。どうか、かえしてください。」

天女^{てんによ}がなきながらたのむので、りようしはかわいそうになりました。

りようしがはごろもをかえすと、天女^{てんによ}はおれいにうつくしいまいをまいながら、空高くのぼっていききました。

① 天女^{てんによ}は、はごろもを何にかけましたか。



の木

② 天女^{てんによ}が「かえしてください」とたのんだのは、どうしてですか。

③ 天女^{てんによ}がなきながらたのむのを見て、りようしはどんな気もちになりましたか。

ア うれしくなった。

イ かわいそうになった。

ウ おこった。

④ はごろもをかえしてもらった天女^{てんによ}は、どうしましたか。
